

平成28年度 第2回 埼玉県社会教育委員会議 会議録

1 日 時 平成28年10月25日(火) 9:30～11:30

2 会 場 埼玉県立文書館 3階 講座室

3 出席した委員 (14人)

小川三代子委員、青木健志委員、植田富美子委員、牛山佳久委員、
室岡重雄委員、本山政志委員、島田ユミ子委員、築地彌生委員、
関根正昌委員、高橋さかえ委員、根岸茂文委員、森元州委員、
山形克己委員、山本和人委員

4 欠席した委員 (6人)

上原朱美委員、宮崎勝行委員、金藤ふゆ子委員、日下部伸三委員、
中野洋恵委員、松崎宏美委員

5 あいさつ

埼玉県教育局市町村支援部 藤田栄二 副部長

7 議事の経過

(1) 議長の開会宣言

(2) 会議の公開・非公開

議長が会議の公開・非公開を委員に諮り、公開とする。
傍聴者なし

(3) 会議録署名委員の指名

議長から築地彌生委員と高橋さかえ委員が指名された。

(4) 議題及び経過

ア 議題

- 建議の骨子案について(協議)

イ 経過

議題 「建議の骨子案」について（協議）

- 議長 はじめに、「建議骨子案について」事務局より説明願いたい。
- 事務局 「建議骨子案について」を基に説明。
- 議長 まず、（１）「学びを支える」ためのネットワークについて、ご意見、ご質問はあるか。
- 委員 県庁内１６部局がすべて関わっているのは非常によい。重点をもう少しメリハリつけたほうがよいのではないか。意見に誰も責任をもたなくなる気がするがどうか。
- 議長 事務局、説明願いたい。
- 事務局 当課が中心となり、埼玉県生涯学習推進指針に基づいて、全部局の情報を取りまとめている。県庁内でも講座の数が多き部局と少ない部局があり、防災関係の講座が人気である。県民に多くの学びの機会を提供している課の情報は、メリハリという意味では前面に出していくことは必要かと感じる。確かに講座の数に違いがあるのは現実としてある。
- 委員 前回欠席していたので若干後戻りしてしまうかもしれないが、テーマについて、文科省では「地域課題の解決」という言葉が入るので、「何々に活用する」という言葉が入ったほうがよいのではないか。何に学びの成果を活用するのか。「学びの成果を地域課題に活用する」といったような言葉を入れたほうがよいのではないか。
それから、２ページ目の施設のネットワークの目的のところ、「新たな学びを提供する」とあるが、「新たな学びの機会を提供する」ではないか。
- 事務局 「地域課題の解決」というほうが文言的にすっきりするという話があったが、最終的には地域課題の解決に向けて活動していく姿としてはある。今まで生涯学習・社会教育で学んできたことを通して最終的

には地域課題の解決に生かすという視点で考えたのでこの文言になっている。

委員 ここが建議の一番の柱である。地域課題の解決という言葉を入れたほうがよいのではないか。何をするのか、何に活用するのが見えないスローガンである。最終的には皆さんの意見で地域課題の解決という言葉を入れるか入れないかは決めることではあるが、文章として何に活用するという文言は必須のような気がする。

委員 この庁内ネットワークは青少年課の青少年育成埼玉県民会議とかと似ているように思うが、これから構築していくということでよいか。

事務局 現在、全部局の活動内容について当課で集約している。連携という面では弱い。今後、県庁内の横のつながりを強められればよいと考えた図である。

委員 これから構築していくということで捉えていいか。

事務局 すでにあるものだが、強めていきたいと考えている。

議長 この図はすでにあるものということか。

事務局 埼玉県生涯学習推進連絡会議自体はすでに存在している。

委員 今の話を聞いていると、図の問題であるが、この図の各部を横で線をつないでみてはどうか。入っていないとやらなくてよいと思ってしまうので、全16部局を入れるしかないのではないか。横につながる図の描き方がよいのではないか。

事務局 そういう必要がある。

事務局 行政は縦割りのところがある。当事者意識をもたせる意味でも横につながる図の描き方がよい。

現状にあるネットワークをこういうふうにしていきたいことがわ

かりにくいので、現状と今後について整理していく必要がある。

目的に「地域課題の解決」という文言を入れたほうがいいのか、入れなくてもいいのかについてであるが、皆さんで方向性を決めていければいいと思っている。

委員 一番はトップの発信が重要になるのではないか。

議長 課題解決という言葉を入れるかどうかについてだが、皆さん、いかがか。講師になるのも、プログラムを作るのも、ボランティアになるのもそうであるが、学んだことの生かし方がある。最終的には地域の課題解決につながっていくものである。事務局からも説明があったように、皆さんの意見を確認させていただく。

特に意見がないようなので、現状のままにさせていただき、将来的に必要であれば入れていくということにする。

(2) 施設のネットワークについて (3) 生涯学習ステーション事業 (4) 市町村における学びの機会を創造するネットワークについて順番でご意見いただきたい。

事務局から少し説明願いたい。

事務局 (2) 施設のネットワークについて、今までこの図のような横のつながりが少なかった。例えば、自然の博物館で長瀬の歴史を学んだ後、長瀬げんきプラザのサイクリングで実際に地域の遺跡や地層を観察するように、地域の施設と連携することで学びが広がると考えている。また、行田市にある県の施設と市の施設が同じようなテーマで連携して企画提案することで、県民の学びが広がり、興味関心をもって見てもらうことができるのではないかと考えている。そのような施設同士のつながりを提案したものである。

委員 例えば、学校応援団のコーディネーターの研修などが複数カ所である。なぜ両方で一緒にやらないのかと思う。こうした研修を地区ごとに一緒にやってもらえればいいと思っている。縦割りをなくすと効率よく学べ、児童生徒に還元できると思う。学びやすい環境をつくっていただくことが大切なのかと思う。

事務局 その通りである。同じような企画を複数カ所で開催している。精選

し、効率よく情報のやりとりをして1つにまとめていくことは必要なことだと考える。

委員

今の件だが、実践したプログラムを視覚や音で伝わるような組み立てをしたらどうか。いいプログラム内容を画像で収録し、ネットで見られるようにすれば、どこからでもアクセスできるようになる。顔を出すことが問題ではあるがクリアできるのではないか。例えば、高校四者面談会を10数年やっているが、そういうものを画像で撮ってメディアにし各学校に配るということもできる。行ってみないとわからないということが今の時代に合わない。行ってみるとというのが一番いいが、できないのであれば、今の時代に合ったやり方にしていくとよいのではないか。

事務局

例えば、生涯学習ステーションの充実という意味でも、研修の映像が見られるのは魅力的であるが、生涯学習ステーション自体が県のホームページ上にあり、ホームページの所管課とも実施可能かどうかについて検討していきたいと考える。

委員

大規模公開オンライン講座のムーブでは、世界中の大学の講義が見られる。例えば、こういう大学で公開講座をしているなど情報を公開していくのはどうか。学習システムの開発ではなく、生涯学習ステーションで大学の情報を活用して充実させていくのがよいのではないか。

事務局

現在、大学の公開講座や情報を生涯学習ステーションで発信はしているが、待っている感じがある。こちらから情報を取りに行くことがなかなか難しい状況ではあるが、情報をより多く発信していくということは大事なことだと考えている。

委員

学校の現場では、ありとあらゆるチラシが届き、情報が非常に多い。特に県民の日に関するチラシには県や市町村のチラシの量が多く、同時に多くのイベントの紹介がある。どうにかならないものか。チラシの内容を整理できないかと思う。

議長

(3)の生涯学習ステーション事業についての内容に入っているよう

な気もするが、生涯学習ステーションについてどうか。

委員 生涯学習ステーション事業の内容がよくわからないが、どこが所掌しているのか。図は現状とどこを変えようとしているのか。

事務局 現在、生涯学習ステーションは当課が所掌し、県ホームページのトップにある。県としても県民の生涯学習への入り口として県ホームページのトップにあるのは県全体で生涯学習に取り組むという意思の表れである。月ごとに事業の紹介をしているのと、指導者の登録などを行っている。指導者情報を見た県民の方が、当課に問い合わせ、その後マッチングしている。生涯学習ステーションを充実し、いろいろな団体との結びつきにより、HUBとなり、より効果的な情報提供をしていきたいと考えている。

議長 生涯学習ステーションのネットワーク、施設のネットワークがあったが、これについて意見はどうか。

委員 ホームページとHUBの話があったが、システムを使える人ばかりではない。10年前と比べるスマホやパソコン教室も増えてきている。10年前から比べると便利なツールになったと言える一方、いろいろな家庭の状況がある。周知するためには、紙がまだまだ必要なんだということを頭に入れつつ、生涯学習ステーションの存在を確立しないといけないと思っている。

委員 地域にはいろいろな方がいる。ホームページすらわからない方もいる。訪問して、チラシなどの紙を持ってまわることも必要である。高齢者に紙を持っていくことが今日的な課題だと思っている。公民館や学校などから情報をキャッチするフットワークが大切である。スマホも映像もいいが、言葉や表情で伝えることが大切だと思う。災害時の顔つなぎとして、人のつながりも必要である。顔つなぎが地域ぐるみの中では有効であること強調させていただく。

議長 ネットワークの先端という意味でどうするかといったところか。
(4)市町村における学びの機会を創造するネットワークについて、ご意見、ご質問はいかがか。

事務局 図は、社会教育に関係する人と施設、団体がいることを表している。県では、子ども大学を実施している。子ども大学の実行委員には、地元の青年会議所やNPO、大学などが関わっている。実行委員会を別の分野で生かさないかという提案である。いろいろな団体が関わることで地域での新たな学びとして何かできないかという図である。

議長 それぞれ団体を線で結び、力を合わせて何かをすることでネットワークと言える。結ぶだけではなく、情報やお金が流れたり、一緒に何かをやったりしていく必要がある。結べばネットワークが動くわけではない。県が中心となって関わっていただく必要があると思う。

事務局 子ども大学でもスタート時はうまく動かない。新たな組織が動くには全体を把握している県が関わらないと厳しいと思う。

議長 これがうまくいけば、かなりいろいろなことができるようになると思う。

委員 子ども大学が成功したのは県の方の力が大きかったと考えている。予算もモデル事業もそうであるが、自治体や大学との連携をとってくれる県の力が大きいと思っている。県や国がモデル事業を進めていくことが必要で、県の行政が関わらないと動けない。

委員 確かに県が関わらないと機能しない。あと、「商工会」しかないが、市町村によって「商工会議所」と「商工会」があるので、どちらも入れておく必要がある。また、「民間企業」が入っているが、「民間企業」のところを「経済団体」とするとよい。

委員 これまでの会議での意見を反映した建議になっている。例えば、コンビニはナンバー2までしか生き残れないと言われており、他社と違うサービスを日々考え、様々な工夫をしている。この建議も見劣りしない形にはなったので、あとはどうやって実行あるものにしていくのかという具体案がないと感じた。細かいところの運営の仕方やネットワークを生かしていくのにどうすればいいのかを考えないとたぶん今までと変わらない。例えば、「学びの循環推進委員」とかをあらゆ

る部署から推薦してもらい、その人に自覚と責任を任せるようにする
ということが必要だと思う。それで、フォーラムや講演会を設け、名
刺交換会のようにして交流できる場を設ける。デジタルかアナログか
ということについては、アナログでの交流になる。どうしたら動き
始めるかを工夫しないとイケない。活用の仕方が大変である。

事務局 貴重な意見をありがたい。委員のようにメディアの方に入ってい
だしている。チラシを配るのも大切であるが、メディアの影響力もあ
る。先程の「学びの循環推進委員」の話では、メディアの方にも入っ
ていただくことは可能か。

委員 参加させることは可能である。学校でも学びの循環推進委員とかを
設けるとよい。

事務局 学校教育と社会教育との連携をどこかで意識することは必要であ
る。中教審答申で「地域学校協働活動」という新しいキーワードがで
て、統括的なコーディネーターを配置する話がある。統括的なコーデ
ィネーターとの関連で、何かできないか検討することも考えられる。

委員 統括地域コーディネーターでは、家庭、学校、社会が連携しなくて
はならない。

委員 地元では100人を集めるのも大変である。人を集めるには、学び
や学習では人が来ない。遊びという面がないと人は集まらない。遊び
があるということは、楽しいということにつながる。社会教育
でも楽しさをどう出していくかが課題だと思う。

議長 事務局から何かあるか。

事務局 企画しても参加があるかどうか難しいところがある。内容が大事で
あるし、表題を工夫しながら多くの人に関心をもってもらう努力が必
要と感じた。

事務局 「親の学習」と言っても来ない。そこで、親子のふれあいで、絵本
の読み聞かせをするといった工夫が必要である。参加した方には、

「親の学習」の要素を持ち帰ってもらっている。楽しい要素が大切である。

議長 次の2「学びの成果を活用する」ネットワークについて、ご意見、ご質問はあるか。

委員 新たな取組を推進することはとても魅力的である。高齢者が増えてきている今、その知恵やノウハウを生かせると良いのではないか。お茶飲み話から地域の高齢者が一緒に集い、「学び」にしていく。一緒に集うことで、「学び」が始まるのではないか。学びたい気持ちはあるわけなので、こちらから訪問していくことも急務ではないか。

委員 青少年育成埼玉県民会議との整合性がよくわからない。この会議には、県民会議にも出席している方もいる。会議を1つにするのは難しいと思うが、青少年教育団体はこの図にあるだけではない。

事務局 社会教育委員の方が所属している団体名を挙げている。県民会議は青少年の健全育成を目的として実施しているものである。目的ははっきりしている。生涯学習・社会教育は広いので、テーマもいろいろな分野からあると考えられる。

委員 ネットワークを網羅するのは、大事なことであるが、まずは、仕組みを作り、そのあとに活用を考えていくのがよいのではないか。住民基本台帳、税、福祉等のデータの扱いについて、行政では、すべて別々のシステムになってしまっている。同じようなシステムなら、情報が共有でき、活用の面も広がってくる。アナログかIT化かということにもかかわってくるのではないか。

議長 学びの成果活用するネットワークについて、他、いかがか。

委員 事務局の説明で社会教育関係団体のことがよくわかった。線がつながっているなど感じる。この線は人と人とのつながりだと思う。委員が言っていたネットワークを作ったらどうかという意見に刺激を受けた。専門的に関わるのが大事だと感じた。人と人との交流が不可欠である。交流の動機となるファクターが必要になるのではない

か。何らかのイベントを開設していくのも一つの方法であるし、会議を立ち上げるのも一つの方法であるかと感じる。

委員 学びの成果を活用するという部分で、生涯学習文化財課と学校を置き換えると、今の学校は地域のいろいろな力を借りている。これをうまくまとめて1つの力にしていくのがコーディネーターの力である。学びの成果と子供たちを置き換えると、何に活用するのかを考えるとよい。

議長 第2章 ネットワークを生かした取組についてご意見・ご質問はいかがか。

委員 家庭では、子育ての不安や悩みもあるが、高齢者を抱えた悩みもある。家庭と地域が両輪の如く動いていたと考えている。家庭が抱える課題に高齢者の方への悩みを入れて考えたい。

議長 他、いかがか。

委員 教育格差解消が今回の建議の結論になるのか。それとも次回以降の課題としてここに残すのか。

事務局 あくまで例示として、このテーマではこんなことができるのではないかということを示したものである。こういう取組ができるのではないかという提案を市町村の担当者会などで伝え、市町村で地域課題をどのように解決していくことができるのかというベースになる提案書といったものである。

委員 そうすると、今回は（1）しかないが、どの辺まで深めるのか。

事務局 （2）、（3）を作ったが、広がりすぎてしまう。青少年の健全育成とか家庭教育といった考えやすいテーマで例示したほうがよいと考え、一旦、（1）を示している。

委員 この中に高齢者についての課題がないと思っていた。社会教育に関わる者として、圧倒的ニーズが高齢者についての課題である。今の事

事務局の説明でこれから広がっていくということであることがわかった。例えば、おばあちゃんの知恵とかで、悩みを聞くというよりは、アクティブに高齢者の方を活用してほしいという考え方を（２）、（３）のところで入れていただきたい。

委員 子ども会に子供が少ない。しかし、社会貢献できる人はたくさんいる。生涯学習・社会教育は最終的には地域まちづくりにつながると考えている。元気高齢者の知的、体力を社会貢献に活用できるようにつなげてほしい。

委員 例えば、非常災害時に向けて、炊き出し、テント設営などにボーイスカウト団体のノウハウを生かしたり、情報を広げるという意味でメディアの方に入ってもらったりするなど、様々な方が関わることが必要である。こうした例示をしていただいて有り難い。

事務局 地域にはいろいろな課題やそれに対する策がある中で、1つの事例として、家庭教育支援がある。何に活用するかという意見につながるが、地域における課題解決なのか、あるいはまちづくりという言葉を入れるのかについてはご意見いただきたい。学びの成果の活用として、おそらく高齢者が中心になるだろう。地域によっては、高齢者のカフェから放課後子供教室につなげていく仕組みをつくっている。高齢者の学びを子供たちに生かすというモデルを広めていきたいということを知りやすく伝えていけるといいかと思う。

委員 ここでの表記を案とするからよくないのではないか。連携の具体的な一例としたらどうか。いろいろな意見が出たが、あくまでも連携の一例ということにしないと建議としてはまとまらないと思うがいかがか。

事務局 事務局としては、例示と考えている。

委員 この知識を地元で反映するとか、PTAでも反映できればよいと思っている。社会教育委員として地域課題を解決するための建議なのか、それともこういうことをしていったほうがいいという建議なのか。「解決」というと解決するための策を常に探っていくことになる

のかなと思う。

議長 課題解決に向けたという内容になるが他にご意見はあるか。

委員 子供たちが抱える課題のところ、**「生活習慣」**を取り上げてみてはどうか。

委員 学校がある時間に外で自転車に乗っている生徒がいた時に、現実的に声をかけられるかどうか。そういう生徒に、大人がどう関わっていくのかということが一番大事なことはないか。

議長 これらを踏まえて、事務局の方で進めていただきたい。最後に、事務局から何かあるか。

事務局 「今後の日程」について説明。

議長 それでは、本日の議事はこれで終了とする。（閉会宣言）